

南の風 427

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

- ・「クローズドクエスチョン」より「オープンクエスチョン」→「回答者側に主導権」
「オープンクエスチョン」を心がけ、相手が上手く表現できず答えに窮すれば、二択や三択のクイズにして問いかける。YESかNOの「クローズドクエスチョン」だと、質問者がすでに正解を用意しており、質問者が回答権を握っていることになる。

(3) 失敗できる環境を提供する

- ・初心者が未経験者がボールに集まって、「団子になる」のは、自然現象→「団子になる」ことを得る子どもたちの「気づき」を大事にする。「どうしたらパスがもらえる?」、「どうすればパスできるかな?」
- ・失敗できる環境を選手に与える → 選手にとっての学びのチャンス
- ・時代、環境は変化する → 指導者の成功体験は通用しなくなる → パラダイムシフトが必要

III パフォーマンスを生む言葉

(1) 「いいね！」は無意味？ → 価値あるメッセージか？

- ・大事なことは、選手が「自分は認められている、自分の意見を聞き入れてもらっている」と感じること
- ・「ナイスパス！」で終わらせず、「今のパス、なぜ右に出したの？」と尋ねる
- ・意図した「問いかけ」→ スペシャルな指導者
- ・「問いかけ」は、質の高いフィードバック

(2) 伝えるべきネガティブなフィードバック

フィードバックの対象となる選手の、どんな「要素」に、私たちは反応しているのか？

①選手のアティチュード (attitude = 姿勢、態度、取り組み方)

②選手のアブティチュード (aptitude = 適性、才能、スキル)

③選手のビーイング (being = 存在、ありよう)

・「何に対して」怒っているのかを明確に

- ・①のアティチュードに対してのみ、ネガティブフィードバックすることが肝要
- ・②のアブティチュード → 取り組むことで伸びしろがある → サポートすべき、ポジティブなフィードバックを効果的におこなう。なぜならスキルは選手の、現在地。可能性は誰にも分からぬ。
- ・③のビーイングは個人の尊厳(人権)であり、侵してはならない。「チームにいらない」、「出でいけ」、「おまえは能なしだ」は完全にNG。

以上のように、存在を許容し、適正（スキルを含む）をサポートするのがコーチ、指導者の役目です。

次号にします。